

横浜市小学校社会科研究会

3・4学年部会

研修会記録 第2号

令和2年 10月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 相澤 昭宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

3学年部長 岡村 新一郎

【提案日時】

9月 9日 (水)

提案 東方 早紀先生 (横浜市立大綱小学校)

提案 小池 悠先生 (横浜市立希望ヶ丘小学校)

【会場】

横浜市立平沼小学校

司会 比嘉 将来先生 (横浜市立西富岡小学校)

記録 白井 亮先生 (横浜市立洋光台第四小学校)

全小社 神奈川大会 プレ提案

①大綱小学校 東方 早紀先生 3年「横浜市と共に歩んだ大綱小」

(授業者から)

- ・コロナウイルスで休校になった関係で、実践ができたのは途中までであった。
- ・大綱小の年表を作成して実践を行ったが、有効に働いたと思う。
- ・今回、子どもたちにとって身近である小学校を学習材とした。本時の学習問題、「1967年になぜ大綱小学校は移動したのかな。」については、学習問題の設定が難しいかなと感じた。

(A・Bグループに分かれて研究協議、その後、各部会から報告)

[Bグループの討議内容]

- ・学校と市のうつりかわりがかかわり合っているのはよい。
- ・本時において資料の具体(年表)がないのは厳しい。話が空中戦にならないか。
- ・「昔」をどうとらえさせるか。具体的に、今、どこについて話し合っているのかを示すことが大切。
- ・市のうつりかわりのどこに焦点を当てるのか。分からないことも多い。3年生なのでなるべく具体的にとりあげ、「今、当たり前前に生活しているけど、昔は〇〇なことがあったんだ。」のように、昔と今をつなげて考えていけるとよい。
- ・大綱小学校の移動は行政が決定したこと。どう問題解決にもっていくのか。「いろいろな理由があるんだね。」におとしていけるとよい。理由に迫れるような学習問題になるとよいのでは。人を取り上げているので、「〇さんと〇さんの思いが形になっている」のようなおとしどころにできないか。

[Aグループからの協議報告]

- ・歴史を子どもたちにいかに身近に感じさせていくかが大事。
- ・小学校を題材としたのはよい。
- ・地図を手書きにしたのは、あたたかみがあってとてもよい。

[Bグループからの協議報告]

- ・年表が具体的になっていくのはとてもよい。
- ・小学校の移転にはいろいろな要素があるが、どれをとりあげていくかが大切。
- ・人が登場しているのはとてもよい。その人から具体的な話を聞けるとよい。

②希望ヶ丘小学校 小池 悠先生 4年「伝統を生かした箱根のまちづくり
～箱根寄木細工をつくるHさんの思いに迫る～」

(授業者から)

- ・Hさんの「なかなか納得がいかない。」という言葉から、学習問題が成立すると考えた。Hさんの言葉のもつ意味について子どもに考えさせたかった。
- ・寄木細工の学習で終わらないように、箱根町全体につなげていきたい。
- ・単元を通して、まちづくりに焦点化した単元構成をすることができた。
- ・単元を通して、職人であるHさんがメインになってしまい、箱根町のさまざまな人に焦点をあてることができなかつた。

(A・Bグループに分かれて研究協議、その後、各部会から報告)

[Aグループの討議内容]

- ・単元の導入で、観光客数から始まったことで全体を見ることができた。グラフがおもしろい。
- ・グラフを見せたことで、子どもたちの箱根への興味が高まった。
- ・箱根に自然なカタチでいくのは難しい。今回のやり方はよいのでは。「寄木細工」のために観光客は箱根に行くのではない。そこの「ねじれ」をどうするか。
- ・「寄木細工から箱根町全体にどうつなげていくか」が難しい。
- ・終末(箱根町に観光客がたくさん来る理由)へのもどし方が難しい。箱根町は寄木細工だけでなく、温泉という要素もある。ここをどうつなげていくか。

[Aグループからの協議報告]

- ・子どもたちが寄木細工を身近に感じ、真剣に話し合うのはよいが、一旦寄木細工にグッと入ってから箱根にもう一度もどっていくのは難しい。どう単元を構成していくか。

[Bグループからの協議報告]

- ・観光客の数と寄木細工は本当にリンクしているのか?寄木細工以外の要素(温泉など)も絡んでいるのでは。
- ・子どもたちがHさんの言葉から真剣に話し合っている姿がよい。

<講師(先輩)の先生より>

○希望ヶ丘小学校 小竹 護先生

(3年生の実践)

- ・年表は「尺度を示す」こととしてとても有効。年表から横浜市へのつながりが見える。「可視化」。
- ・第一単元がとても大切。
- ・人が登場してくるのはとてもよい。色々な人にきくことで広がっていく。
- ・「なぜ大綱小が移転したのか?」では「〇〇だから。」で終わってしまう。「～なのに、どうして…」という形式がよい。具体的な学習問題で。

(4年生の実践)

- ・データ(事実)とホンモノ(事実)をどう扱っていくか?
- ・教材をどこまで使っていくか?
- ・今回使った資料は学校の財産となる。学校全体で共有化できるとよい。

○洋光台第一小学校 中村 智先生

(3年生の実践)

- ・横浜市へとつなげるために、まずは自分たちが通っている大綱小学校からとりあげるのよい。

(4年生の実践)

- ・寄木細工で終わってしまわないようにという考え方は大切。全体へと視野を広げていくことは重要。

文責 白井 亮 (洋光台第四小学校)
発 関口 暁之 (永谷小学校)